

2011 Vol.15 THE BSSC JOURNAL 通巻15号 2011年5月22日発行



びわこ成蹊スポーツ大学新聞 Biwako Seikei Sport College

# THE BSSC JOURNAL

びわこ成蹊スポーツ大学の「今」を伝える

発行=びわこ成蹊スポーツ大学メディア研究会 〒520-0503 大津市北比良1204番地 <http://www.bsscjournal.net/>



# 雨 マケケズ 風 マケケズ

# 貴重な体験 キャンプマン で

330人の新入生を迎えた2011年度のフレッシュマンキャンプは入学式を終えた4月6日から12日まで2つのグループに分かれて3泊4日のキャンプを体験した。がんばりと仲間への思いやりも試される恒例の比良登山は、残雪を踏みしめての厳しい行程になったが、全員が助け合いながら無事に下山した。後半グループは登山後に強風に見舞われ、予定されたキャンプファイアーが中止され、大学アリーナの宿泊で最後の一夜を過ごした。

3月11日の東日本大震災の悲惨なニュースが伝わってくるなかで迎えた今年のキャンプは、新入生にも大きな社会問題としてとらえられた。キャンプに参加した新入生全員の課題になった「フレッシュマンキャンプで私は考えた」のレポートから、岡本育代さんは東北の被災者の気持ちを綴ったこんなレポートを提出した。

「電気もガスもない艇庫で自分たちが火をつけてご飯をたいたりおかずをついたり、夜の暗い中を懐中電灯の明かりだけを頼りに後片付けや翌日の準備をしたりした。いつもなら電気やガスのある生活が当たり前になってしまっている自分たちにとってはとても大変だった。東日本大震災が起きた今、東北地方の方たちがどれだけ大変な生活を



## 初の1部昇格

## 陸上部が学長表彰に

2010年度の学長奨励賞の表彰は4月4日、新入生を迎えて大津市のびわ湖ホールでの入学式に続いて行われ、学業優秀が6人、スポーツ活動優秀の団体は陸上部、個人は3人が受賞した。スポーツ活動では昨年の関西学生対校選手権で念願の1部昇格を果たした陸上部が表彰され、個人では関西学生水泳選手権で優勝した男子の横江諒一(背泳ぎ)、女子の辛島亜由子(背泳ぎ)、関西学生陸上対校選手権の競歩1万mで優勝した丸尾知司が受賞した。

**2010年度 学生表彰**

**学長奨励賞**

3年次生学業成績最優秀  
生涯スポーツ学科 東 絵美子  
競技スポーツ学科 内海 沙織

2年次生学業成績最優秀  
生涯スポーツ学科 阿部 春奈  
競技スポーツ学科 廣田 岩寿

1年次生学業成績最優秀  
久岡 昂平

スポーツ活動優秀

<団体>  
陸上競技部

<個人>  
横江 諒一 (水泳)  
辛島亜由子 (水泳)  
丸尾 知司 (陸上)



# リーグ制覇がスローガン!

# 快進撃 攻撃サッカーで



4月10日に開幕した関西学生サッカーリーグ。昨年8位と低迷した「びわスポ・イレブン」が序盤戦を3勝3敗1分で上位争いに加わっている。昨年の高校選手権で活躍した新戦力に加えて今春にスペイン・ドイツへ海外遠征した成果もみせ、4試合で11得点をあげる攻撃力が際立っている。

「昨年に比べると、今季は着実に攻撃力がアップした」。3シーズン目を迎えた望月監督が目を細めたのが、4月29日の関大戦だった。昨年の大学日本一になった関大は、その底力をみせつけるように今季も開幕から3連勝。びわスポにとっては序盤の大きなヤマ場になった。関大が誇るパスでつなぐ巧みなサッカーをしのいだびわスポは、ドリブルやサイド攻撃で揺さぶりを、後半15分に浅津が先制点をあげ、さらに30分に松田力が貴重なゴールを追加して関大を突

き放した。1年の昨季からレギュラーに定着した松田力と4年目で素質が開花した浅津のFWコンビが仕掛ける攻撃は、松田力が3ゴール、浅津が2ゴール。開幕からの4試合11得点のうちほぼ半分を二人があげ、松田力、浅津とも2アシストをあげるなど二人のコンビネーションで攻撃リズムがうまくかみ合っている。1年次生のDF中村、MF加藤が新戦力として加わった布陣は、半分の立正大湘南高出身で占める。気心の知れあつた仲間意識がチームの結束につながっている。開幕戦の同大に4-0で大勝し、3戦目の大産大にも4-1。セットプレーからうまく得点に結びつけ、こぼれ球の処理にもソツがない。「ゴールに貪欲さが出てきた」という指揮官の言葉に、今年のチームにかける期待の大きさが込められている。



# 厳しくなった 女子ソフトの 西日本出場

女子ソフトボールの関西学生リーグは、4月10日に開幕。予選リーグの戦いでびわスポは、初戦の大府大に大勝したが、強豪校には攻守に精彩を欠き、大成学院、龍谷大に完敗して2敗を喫し、西日本大会への出場が厳しくなった。

(女子ソフトボール主将 上原花奈恵)

初戦

	1	2	3	4	5	6	7	
大阪府立大	0	0	0	0				0
びわスポ大	2	3	3	4				12

先発中村の好投と効果的な攻撃で大勝した。1回、先頭辻本が四球で出塁。上原のバントも安打になり、金井の中前安打により1点。その後も6番上野の左前安打で加点した。2、3回ともに攻撃の歯車がかみ合い3点ずつ追加。4回にも猛打で4点を追加し4回コールド勝ちで初戦を飾った。

予選2回戦

	1	2	3	4	5	6	7	
大成学院大	2	0	0	1	1	0	3	7
びわスポ大	0	0	0	0	0	0	0	0

1回に四球からつまずき、失策も絡んで2点の先制を許したのが大きかった。びわスポはその裏、辻本の二塁打から1死3塁の好機をつかんだが、後続が倒れた。逆に大成学院は4、5回に1点ずつ追加し、7回に連打やエラーで3点を追加し、びわスポを突き放した。

予選3回戦

	1	2	3	4	5	6	7	
佛教大	0	0	0					0
びわスポ大	8	3	×					11

立ち上がりからびわスポが攻守で圧倒した。1回、辻本の中前安打から児玉の適時打で先制したあと、長短打を集めて8点を奪った。2回にも上野の左前安打から南の二塁打などで3点を加え、大黒柱、中村の好投により0点のまま抑えてコールド勝ちした。

予選4回戦

	1	2	3	4	5	6	7	
四天王寺大	0	0	1	0				1
びわスポ大	0	3	5	3				11

びわスポは2回、南の四球から相手の失策と久村の二塁打などで3点を先制。1点を返された3回には、4番金井の左前安打からチャンスを作り、南の本塁打で3点を追加したあと、上原のバント安打、さらに辻本の安打と久村の三塁打で計5点を奪った。4回にも金井の死球から3点を奪ってコールド勝ち。(予選2位で部別リーグ)

部別リーグ 1回戦

	1	2	3	4	5	6	7	
びわスポ大	0	0	0	0	0	0	0	0
龍谷大	1	0	0	0	2	3	×	6

龍谷大の試合運びにはソツがない。びわスポが好機を逃した1回、龍谷大は四球から連続安打で先制した。5回に2点を追加したあと、6回にも四球からの好機を着実に得点に結び付けた。びわスポの攻撃は、相手の堅守にも阻まれ、精彩を欠いたが、リズムに乗ったときに大勝する力とは逆に強豪を相手にした戦いとの差が激しい。



好スタートの  
アルティメット女子

アルティメットのシーズン開幕になった関西オープン。4月23、24日、兵庫・淡路島の佐野運動場で行われ、女子が準優勝で幸先よい幕開けになった。

23日は悪天候で試合時間が半分の20分に短縮されたが、降りしきる雨の中でレィカーズ女子(びわスポ)は、集力を切らさずに初戦の阪大に3-1、続く関学、近大には2-1で競り勝ち、予選グループ1位で上位トーナメントに進出した。びわスポは多河佑香、宮

里巴美の4年次生コンビがゲームメーカーになり、決勝トーナメント1回戦の同大に8-5で快勝して決勝に進出。和歌山大との優勝争いは、もつれた展開の末に6-7で敗れた。優勝を逃したとはいえ、ディスクを全員でつなぐ粘りの戦いに自信をつけ、創部以来の大目標である学生日本一に向けて大きな弾みがついた。

15チームが参加した男子は、精彩を欠き11位に終わった。



# 浦本が 1部復帰へチーム丸の戦い 大奮闘

合言葉は「1部復帰」。京滋大 学野球リーグ2部で、びわスポが 首位争いに加わり、1年ぶりの1 部復帰を目指している。投の大黒 柱、浦本(写真右)が開幕から負 け知らずの4連勝、左腕の川島(写 真左)も先発で力投する両輪がか み合ったチームは、序盤を8勝1 敗1分けで滋賀県立大と優勝争い を繰り広げる。

浦本の安定した投球は、2部リ ーグでは群を抜いた存在。伸びの あるストレートとフォークボール、 カープの変化球の切れ味も鋭い。 その頼もしい大黒柱ぶりをみせつ けたのが、4月17日の滋賀大戦。 5-3に追い上げられた9回、山 脇が背負った1死1、3塁のピン チに今季初のリリーフに立った。 先頭打者に右前打を打たれて1点 を失ったが、その後の2打者を決 め球のフォークボールで連続三振

に打ち取り、貴重な勝利をもたら した。

今年が最後のシーズンになる浦 本は、オフに例年以上の走り込み に励んだ。低めの制球に安定感が 増したのは、コツコツと地道なラ ンニングで下半身を強化したから だ。4月29日の滋賀県立大戦では、 1-1で引き分けたが、延長12回 を投げ抜いた。珍しく四死球が多 かったが、被安打3、失点1。1 72球を投げて奪三振15の力投に 本郷監督も「粘り強いピッチング には頭が下がる。力投に報いるた めにも勝たせてやりたかった」と 悔やんだほど。この浦本を中心 にしたチームは、長打力に欠けるも のの攻守にまよっていない。

打線は3番の岡田凌太を中心に 下位の堀田、林がしぶとい打撃を 見せ、1部復帰の期待を担って いる。

## 主なクラブ活動成績 大学スポーツ界の 春本番

新戦力が加わった学生スポーツ界は春季リーグたけなわ。びわスポ勢はアルティメットの女子が開幕を飾る関西オープンで準優勝した。また、柔道部は5月15日の関西学生女子優勝大会(5人制)で3位に入った。

### ▼関西大学バレーボール春季リーグ

		得点	対戦相手
男子	びわスポ大	0-3	大阪学院大
		0-3	同大
		1-3	京産大
		1-3	龍谷大
		3-0	関大
女子	びわスポ大	0-3	神戸学院大
		3-0	滋賀短大
		0-3	大体大
		0-3	天理大
		0-3	仏教大



### ▼関西学生バスケットボール選手権

		得点	対戦相手
男子3回戦	びわスポ大	72-85	関大
女子3回戦	びわスポ大	33-54	京大

### ▼アルティメット関西オープン

		得点	対戦相手
女子予選リーグ	びわスポ大	3-1	阪大
		2-1	関学
		2-1	近大、楓混成
上位トーナメント1回戦	びわスポ大	8-5	同大
決勝	びわスポ大	6-7	和歌山大

### ▼関西学生サッカーリーグ

		得点	対戦相手
1節	びわスポ大	4(1-0)0	同大
	得点者=石橋、河村、松田力、湯田		
2節	びわスポ大	1(0-0)2	近大
	得点者=但馬		
3節	びわスポ大	4(2-1)1	大産大
	得点者=湯田2、松田力、浅津		
4節	びわスポ大	2(2-0)0	関大
	得点者=浅津、松田力		
5節	びわスポ大	0(0-1)4	阪南大

### 【硬式野球】 ▼京滋大学リーグ2部 1節(4月2、3日)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
京工織大	0	0	0	0	0	0	0			0
びわスポ大	2	1	0	2	0	2	×			7
びわスポ大	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
京工織大	0	0	0	2	0	0	0	0	×	2

### 2節(4月9、10日)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
京工織大	0	0	0	0	0	0	0			0
びわスポ大	0	1	4	1	0	3	×			9
びわスポ大	8	1	1	0	0	0	1			11
京府立大	0	0	1	0	0	0	0			1

### 3節(4月16、17日)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
びわスポ大	0	1	0	6	1	0	0	0	1	9
滋賀大	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
滋賀大	1	0	0	0	1	0	0	0	1	3
びわスポ大	0	1	0	2	0	2	0	0	×	5

### 4節(4月24、29日)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
びわスポ大	0	1	0	0	0	0	0	1	1	3		
滋賀県立大	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
びわスポ大	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
滋賀県立大	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1



# ビクトリア大学から 2人目の 留学生が 来日

## 比良キャンパスを 楽しむ ラグーマン、ラクラン君



# メインアリーナに 大学シンボルマーク がお目見え

バスケット部の佐々木監督、バレーボール部の鳥羽部長らのアイデアで「学生スポーツらしい雰囲気」と、コートの上でシンボルマークをセンターサークル付近に描いた。アリーナの階段からみるべく、シンボルマークがくっきり浮かびあがる感で、選手らは「自分らの本拠地という意識がわいてきて、気分も引き締まる」と喜んでいる。

「びわスポの生活はめっちゃ楽しいですよ」。昨年国際交流提携を結んだ豪州・ビクトリア大学から4月に2人目の留学生として来日したラグビー・ラクラン君(22)が、比良のキャンパスライフを謳歌している。月曜から土曜まで聴講生としての受講と午後はラグビー部の練習で汗を流す「学問とスポーツの両立」に励んでいる。

ビクトリア大からは昨年に女子のケイトさんが初の交換留学生として迎えられ、学園のセミナーハウスを利用して半年、本学で学び、剣道をテーマに論文を書き上げて帰国した。今回のラクラン君も自身がラグビー選手だったことから「日本のラグビーの技術、戦術などを代表から高校生までを対象に

幅広く研究したい」という。ラクラン君はスポーツ心理学やスポーツビジネスなどの講義を聴講するが、もっとも楽しみにしているのはラグビー部の練習に参加すること。「オーストラリアのFWの体重は120キロ前後、びわスポの学生はせいぜい80キロ。パワーはまったく違う。ラグビーも大事だけど、びわこに来てラグビーを通して皆さんの仲間が、大学の先生、職員のみならずも優しくしてもらって、毎日がハッピー」と喜んでいる。

# 4大プロスポーツの本場NYで学ぶ 学生たちも感嘆した

# 2年目の 米ツアー

スポーツビジネスコースが中心に企画する2011年のNYツアーは、3月5日から5泊7日の日程で、学生18人、教員2人が参加した。春休みを利用して海外でスポーツビジネスの現場やナマの米プロスポーツを体感しようというこの取り組みは昨年からスタート。野球(MLB)、アイスホッケー(NHL)、バスケットボール(NBA)に加えて今年新たにアメリカンフットボール(NFL)のスタジアム見学が加わり、米プロスポーツを代表する4大プロの現場を学生たち自身がその目で、その耳で、その肌で感じ取った。

ツアー初日(3月5日)は今年10年のメモリアルになるテロの爆心地となったグラウンドゼロから世界一の金融街ウォールストリート、自由の女神を南に望むバッテリーパーク、国連本部などを足早に見て回った。

翌2日目は世界一収益性が高いといわれるニューヨークカンキースの新球場を視察した。学生たちからは、「フィールドとスタンドの距離が非常に近い」、「日本の球場と違ってスタジアムのデザインがとても鮮やかで芸術的」などの感想が聞かれ、日米のプロ野球ビジネスの違いが浮き彫りとな



った。午後は雨に見舞われながらも、バッテリーパークからフェリーに乗って自由の女神像のあるリベティ島へ移動し、アメリカの自由の象徴を間近で眺めた。夜はブロードウェイのミュージカル・ストンプを初体験し、パフォーマーと観客が一体となってショーを作り出すアメリカ型の極上エンターテインメントに触れた。

快晴となった3日目は、NBAチームとNHLチームの本拠地として使用されているプロデンスヤルセンターを訪ねた。喜を生み出すスポーツアリーナの仕組み、構造、活用術を球団関係者から聞いた。同施設のメディアオペレーションセンターでは「Welcome to Biwako Seikei Sport College」のメッセージをアリーナの巨大電光掲示板に映し出してもらい、学生らの興奮は最高潮に達した。NBAで働く唯一の日本人スタッフ・長澤氏の特別講義を受けたあと、学生たちは本ツアーの醍醐味となったニューヨークの夜景観光に出かけ、ブルックリン、ニュージャージー、ロックフェラーセンターの3箇所から高層ビル群を眺め、夜の摩天楼に浮かび上がったニューヨークを一望した。

最終日の5日目は、1500億円と言われる巨額の建設費を投じて完成したニューメドウランドスタジアム(NFL)を視察し、全席がシーズンシートでしかも1席あたり数百万円もするチケットがすべて完売するアメフトの魅力と、まるで高級ショッピングモールのような付帯施設に驚きの声が上がった。午後はNBAを観戦するためにニュージャージーのプルデンシャルセンターに移動し、試合が行われる実際のコートを使って試合前にバスケット

4日目は特別講義から1日のスケジュールが始まった。まずニューヨーク大学で教鞭を執るケイト・ウォルターズ准教授によるスポーツファイナンスの講義に出席し、英語での授業を懸命に聴講した。次に、ブロードウェイのミュージカルを保持秘訣は、「アメリカンドリームを叶えた瞬間、どのような感動が待っていたのか?」などと、次々と質問が飛び出した。夜は大学バスケットボールを2試合連続で観戦し、毎年3月は全米が大学バスケットになる熱狂的な雰囲気と本場のバスケットをたっぷり味わった。



ボールを体験し、ゲームが始まる際の選手入場では選手をハイタッチで迎える超特別待遇を受けた。場内アナウンスで、会場に詰めかけた大観衆に本学学生を紹介してもらい、最高の歓迎ムードの中、その後の試合ではコートサイドの高層シートでは巨人たちが展開する迫力満点の生のプレイに感嘆していた。

# 東日本大震災の 被災者に義援金



がんばろう、日本。未曾有の大災害になった東日本大震災の被災者の人たちに本学から日本赤十字社を通じて義援金が送られた。3月の9期生の卒業式は、例年の祝賀会から交流会に切り替え、その剰余金から約280万円を義援金にあてられた。飯田学長らの提案で、時節をわきまえた簡素な交流会になったが、卒業生ら全員が被災された方へ哀悼の思いを込めていた。また、学内でも教職員が募金活動と呼びかけて義援金を募った。

# プロ野球公式戦を賛助



プロ野球パリーグの公式戦、西武・楽天戦が4月26日、大津市の皇子山球場で行われたが、大津では55年ぶりという公式戦に本学も看板広告の提供で賛助した。

1塁側と3塁側のベンチ上部に出した広告は、青地に白抜きで「がんばろう!日本 びわこ成蹊スポーツ大学」の文字で、「がんばろう!日本」の文字が小さく入っていた。今回の広告はゲームを主催する西武から依頼があり、大学側も「東日本震災で被災した人たちに看板広告でメッセージを送ることができたら」という思いから初めてプロ野球の広告提供に踏み切った。本学では今春から京都西京極の「わかさスタジアム」の外野左翼部分にも看板広告をだしており、スポーツ施設では2度目の広告協賛になった。

# びわこ成蹊スポーツ大学

〒520-0503 大津市北比良1204番地  
【代表】TEL:077-596-8410 FAX:077-596-8419 E-mail:jim@bss.ac.jp



JR比良駅から線路沿いに徒歩約15分。JR京都駅よりJR比良駅まで約40分。